

レンサルティングで時代を拓く

AKT/O

AKTIO

October
No.15

Communication Magazine

That's "RENSULTING"!

レンサルティングフェア2018 全国で続々開催!
CSPI-EXPO(建設・測量生産性向上展)にも出展、総合力をアピール!

AKT/O



KEY PERSONに聞く **レンサルロボット、参上!**
~旗手たちの競演~

人手不足のビルメン業界に清掃ロボットが革命を起こす!

AKTIO NETWORK

若い力を活かし、
目指すは「サービス日本一」!

Vol.2 エスアールエス株式会社

AKTIO NEXT

交通インフラの保守点検に
レンサルティングを導入!

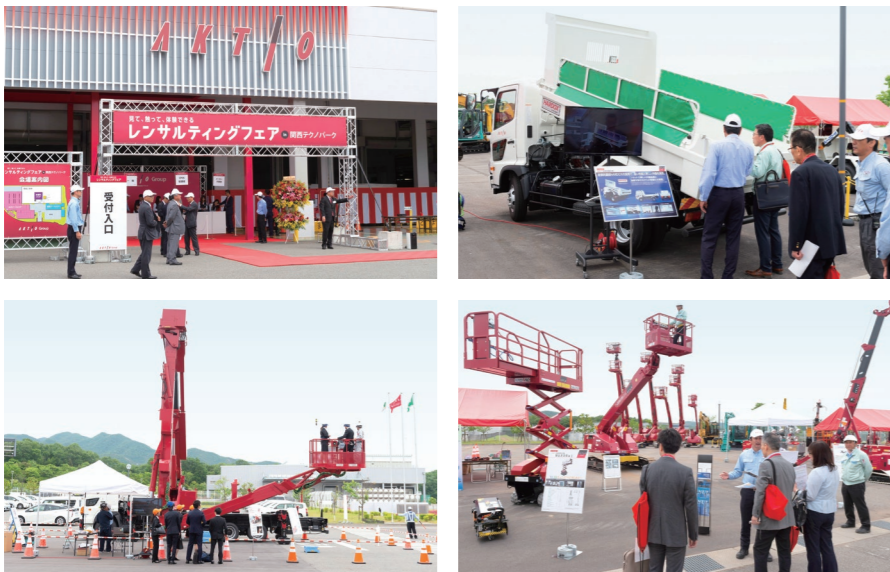
高速道路メンテナンス事業スタート

Kansai Technopark

関西テクノパーク

「見て、触って、体験する」を合言葉に、最新の建設機械やレンサルティング事例を紹介する「レンサルティングフェア」が、昨年12月に関西最大級の整備工場として誕生した関西テクノパークで開催された。フェアに先立ち、5月25日には取引先や関係者など約300人を招いてお披露目会を行い、その後リーガロイヤルホテル大阪に場所を移して懇親パーティを開催。翌26日、「レンサルティングフェア in 関西テクノパーク」では、約100種もの重機や機材が展示され、盛況のうちに幕を下ろした。

レンサルティングフェア



会場となった関西テクノパーク統括工場は総敷地面積4万㎡を誇る関西最大級の整備工場。フェア当日は晴天にも恵まれ、最先端技術から安心・安全のためのサービスまで、AKTIOのすべてを来場者にご体感いただく1日となった。

会場 兵庫県三木市志染町戸田1838-259 関西テクノパーク統括工場内
会期 5月26日

お披露目会



工場内見学風景



工場敷地内見学風景



懇親風景



小沼会長 挨拶

懇親パーティ

レンサルティングフェアを開催！
お披露目会、懇親パーティも大盛況！

AKTIOが全国に向けて “レンサルティング”を発信！

“レンサルティング”の知名度を全国区に！
レンサルティングフェア&
CSPI-EXPOの様態を報告！

AKTIOが提唱する「レンサルティング(レンタル+コンサルティング)」は、着実に知名度を拡大し、今やAKTIOの真っ赤なロゴは、顧客にとって信頼と安心のトレードマークとなっている。その信頼にさらに磨きをかけるべく、AKTIOは全国でレンサルティングフェアを開催。さらに幕張メッセで開催された「CSPI-EXPO(建設・測量生産性向上展)2018」にも出展、好評を博した。



レンサルティングフェア



関西テクノパーク
—兵庫県—



千歳(前号No.14に掲載しております)
—北海道—



仙台 夢メッセみやぎ
—宮城県—



佐野テクノパーク
—栃木県—

建設・測量生産性向上展



CSPI-EXPO
幕張メッセ
—千葉県—



九州テクノパーク
—福岡県—



三重いなべテクノパーク
—三重県—



相模原
—神奈川県—

全国各地で“レンサルティングフェア”を開催!

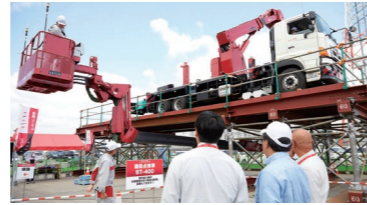
Sendai yume messe miyagi 仙台 夢メッセみやぎ

今回、6カ所目となるレンサルティングフェア。ヘルメットセンサーを装着した作業員が接近すると動きを止めるスリールエスバックホーなど、顧客の声を形にした独自商品や、IoTによるオンライン管理システムなどが紹介された。

会場 宮城県仙台市宮城野区港3-1-7 夢メッセみやぎ
会期 7月27日



プロントスカイリフト実演風景



橋梁点検車(BT-400)実演風景



エントランス

Kyushu Technopark 九州テクノパーク

今回最後の開催地となった九州テクノパーク。ICT対応建機の試乗や自動追尾型ドローンによる飛行デモンストレーションなど、AKTIOの総力を結集した約120機種種の展示に来場者からは「近未来の現場を見るようだ」との声も聞かれた。

会場 福岡県筑後市大字長浜426-10
九州テクノパーク工場内
会期 8月9日



ドローン



3Dマシンコントロールバックホー実演風景



会場の様子



会場入口

Sano Technopark 佐野テクノパーク

120種を超える建機や機材が大集合。ICTなど最先端技術を搭載した重機のほか、不安全行動をVRで体感できる「Safety Training System VR of AKTIO」や発明大賞の考案功労賞を受賞した「根こそぎ切るソー」にも注目が集まった。

会場 栃木県栃木市藤岡町都賀1353
佐野テクノパーク統括工場内
会期 6月7日



Safety Training System VR of AKTIO
体験風景



エントランス



根こそぎ切るソー実演風景

Sagamihara 相模原

ICT・IoT対応建機から女性用の快適トイレまで、建設現場にかかわるAKTIOの最新技術やサービスを幅広く紹介。134機種が展示され、ICT対応の機器や最新のドローン映像が注目の的。小沼会長も現地を訪れ、活気あふれる会場を見学した。

会場 神奈川県相模原市中央区田名3495-2
会期 6月22日



レンサルティングフェアin相模原全景



エントランス



小沼会長 見学



会場の様子

Comment

AKTIOの「レンサルティング」をもっと知っていただきたい——
フェア開催で感じた大きな手ごたえ

AKTIOグループの最大の武器である「レンサルティング」とは「どういうものか」を具体的にお客様に知っていただくために、今回のフェアを開催いたしました。お客様の「困った」を解決したいと、AKTIOグループは常に考えて参りました。その具体的な解決事例を実際に展示し、お客様が「見て」「触って」「体験すること」で、AKTIOグループの提案力・実行力・解決力を知っていただく機会にしたかったので。

お陰さまで、来場されたお客様からも多くの反響をいただき、またありがたいことに、これからのAKTIOグループへのご期待やご要望もお聞きすることができました。この場をお借りして、ご来場いただいたお客様、関係各位に心から感謝いたします。また、お客様に知っていただくにも、まずは社員がその有用性と使用方法をきちんと理解し、会得することで、初めてお客様へご提案が出来ます。全国7カ所での開催でしたが、実際にお客様へ説明することで、社員も理解を深めたようです。

今後のAKTIOグループに大いに期待していただきたいと思います。

Mie inabe Technopark 三重いなべテクノパーク

「ICT・IoT」「防災」「安心・安全」「レンサルティング」の4つのテーマでゾーニングし、約140機種の重機・小型機械等を展示。レンタルをスタートさせたばかりの業務用清掃ロボットも紹介。幅広い提案力をアピールした。

会場 三重県いなべ市員弁町大字大泉字藤谷2178-8
三重いなべテクノパーク統括工場内
会期 7月13日



マグマジェット実演風景



ICT・IoTエリア展示風景



窓用清掃ロボット実演風景



会場の様子



エントランス



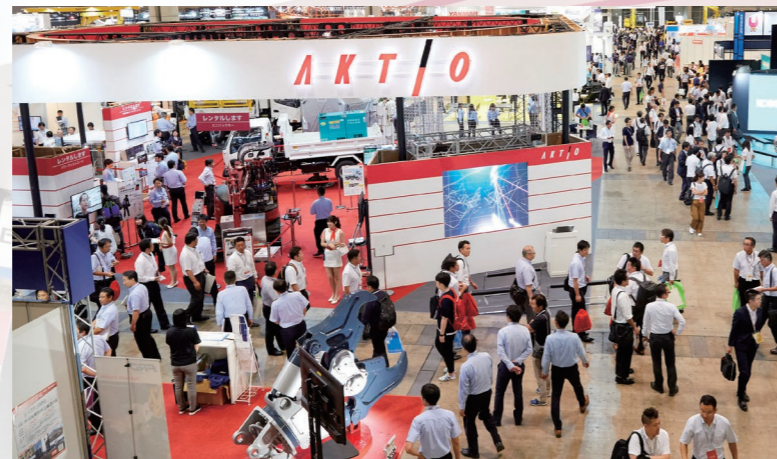
車載式高所作業台付軌陸ダンプ説明風景



屋外展示場の様子



会長・社長 見学



会場の様子



Safety Training System VR of AKTIO体験風景



3F3tスタンションアームローラダンプ展示風景



ドローン、デモンストレーションの様子



建機用無線操縦ロボ展示風景



作業支援補助装置装着の様子

建設・測量生産性向上展

CSPI-EXPO



in 幕張メッセ

建設・建築・土木の最先端が集結!

第1回CSPI-EXPO(建設・測量生産性向上展)に出展 AKTIOの“レンサルティング”を幅広くアピール!

建機用無線操縦ロボなど、約20種を展示
ドローンによる測定デモンストレーションも実施

AKTIOは去る8月28日(火)〜30日(木)の3日間、幕張メッセで開催された「第1回CSPI-EXPO(建設・測量生産性向上展)」に出展。約20種の建機や関連商品を展示し、製品・技術PRセミナーでプレゼンテーションを行ったほか、ドローンによる測定デモンストレーションを実施。レンサルティングを全国にアピールした。

CSPI-EXPO(建設・測量生産性向上展)は、建設業界で加速する人手不足を背景に、国土交通省や業界団体が力を合わせて「工期短縮」「人手不足解消」という課題を解決するべく、業界の未来を創る展示会として開催されたもの。

AKTIOでは、今後もICT搭載建機のレンサルティング等を通じて「Construction」を推進し、業界の生産性向上に寄与する方、今回の出展で改めて全国区の知名度を高めた「レンサルティング」をさらに多方面に拡大していく。

KEY PERSONに聞く

vol.002 Hironobu Itoga

//////////////////// 旗手たちの競演

未来へ向け、各分野で挑戦の場を広げるAKTIO
注目の新規事業を担うキー・パーソンが熱く語る！



robots 参上!

高齢化と人手不足はどの分野でも大きな問題だが、中でも深刻なのがビルメンテナンス業界だ。AKTIOは新規事業開発の第1弾として昨年12月、業界待望のビルメンテナンスロボット普及促進センターを開設。今年4月からは、レンサルティングのノウハウを活用し、現場に応じた機種選定のアドバイスから導入までを一貫して行う清掃ロボットの総合レンタル事業に乗り出した。



ビルメンテナンスロボット普及促進センター
2017年12月13日、東京・日本橋のAKTIO本社9階にオープン。メーカーの枠を超えた6社7機種の業務用清掃ロボットを常設展示しており、同タイプのロボットを比較検討することが可能。2種類の床(タイルカーペットと樹脂張り)の上で実際に稼働させ、性能を確認できるほか、操作体験、各種講習、機種選定のアドバイス、導入相談まで、総合的な導入支援サービスを行っている。案内にあたるのは、ロボット事業推進課の社員2名。予約制。なお、同センターでは今後も新しいロボットの情報を集め、常設ロボットを増やしていく予定。

「ロボットをレンタルしたい」——画期的な 新サービスは会長のひとことから始まった

昨年12月の「ビルメンテナン
スロボット普及促進センター」
(以下、ロボットセンター)開設
(本誌14号既報)は、人手不足に
悩むビルメン業界で大きな注目
を集めた。実は、AKTIOの
強みであるレンサルティングの
ノウハウがこれほど求められて
いたジャンルはないといってい
い。今年4月からはいよいよレ
ンタルビジネスもスタート。新
プロジェクトのキー・パーソン、
新規事業開発部の糸賀浩延部長
に話を聞いた。

——ロボットセンター開設の反
響はいかがですか？
糸賀 予想以上に大きな反響を
いただいています。9月末現在の
来場者数は186社、529名。
内訳はビルメン会社が65社と

最も多く、次いで清掃の資機材
会社、大手不動産などのビル
オーナーと続きます。危機感を
もっておられるのは皆さん共通
ですが、特にビルオーナー会社
からは差し迫った危機意識を感
じました。今後とも都市部に大型
物件の開発が進むにあたり、現状
でも大きな問題である人手不足
がますます深刻化することは明
らか。人手不足の解消は避けて
通れない経営課題になってい
ます。ビルメン会社も同様で、
最大の課題は人手不足と高齢化。
人が集まらず、清掃ができない
ために部屋を貸せないホテルまで
出てきています。また、ビルメン
業界は他分野以上に高齢化が進
んでおり、床洗浄や高所作業な
どは負荷が大きいため、安全面
からの危惧もあります。

レンサルロボット Rensul Robots

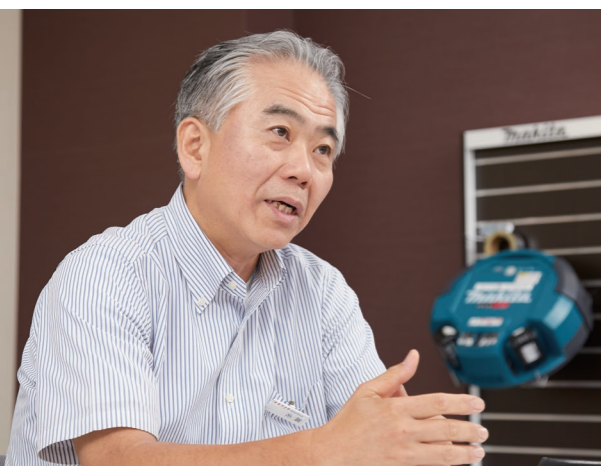
人手不足のビルメン業界に清掃ロボットを！レンサルティングでロボットの普及促進に貢献

——まさに「待ったなし」。清掃
ロボットへの切実なニーズはあ
るけれど、一方で、大型機械の
高額購入はリスクが高い……。
糸賀 清掃ロボットが活躍する
には一定規模の広さが必要で
し、使える場所も限られます。
さらにビルメン業界は年度契約
が多いため、何年も使い続けら
れる保証がありません。こうし
た事情から、ビルメン業者への
アンケートでもレンタルを求め
る声が多く寄せられていました。
——そこで、建機レンタルの
AKTIOがロボットを手がけ
るといふ、思い切った決断に
至ったわけですね。
糸賀 始まりは、小沼光雄会長
のひとことです。「新規事業とし
てロボットをレンタルしたい」
と持ちかけられ、新しい市場の
開拓というミッションにやりが
いを感じて、まずはどの分野の
ロボットをターゲットにするか、
市場調査から始めました。

上席執行役員 新規事業開発部長

糸賀 浩延 いとが・ひろのぶ

1961年東京都生まれ。ロボットレンタルをはじめとする新規事業開発をミッションとして2017年4月、AKTIOへ。日本初の試みとなるビルメンテナンスロボット普及促進センターの設立を手始めに、業務用清掃ロボットのレンタルビジネスをスタート。全国各地で操作体験会開催など、清掃ロボットの普及活動を意欲的に推進している。2018年7月に設立した「日本ビルメンロボット協議会」の会長に就任。



レンタルロボット、参上！
人手不足のビルメン業界にロボット革命



現状の清掃ロボットには、人との共存が不可欠 それでも「3人」より「1台+2人」に未来がある

――業務用清掃ロボットに着目したきっかけは？

糸賀 あるロボットメーカーから、清掃ロボットの普及促進を行っている「ビルメンテナンスロボット普及促進コンソーシアム」（以下、コンソーシアム）を紹介され、ロボットメーカーと多業種の取扱企業が集うマッチング会に参加したのがきっかけです。その席上、経産省の方から「ロボットの普及促進にはレンタルのしくみが欠かせない。ぜひ一緒に活動を」と声をかけられました。清掃ロボットはニーズも市場も将来性もあります。レンタルのしくみを整えれば、普及は間違いなく加速するでしょう。経産省が提唱している「ロボット新戦略」の一助となれば、という思いもあり、事業をスタートさせました。

――4月には早くもレンタルビジネスがスタートしました。

糸賀 コンソーシアムに参加しているロボットメーカーの協力を得て、短期間でビジネスを立ち上げることができました。とはいえ、今の清掃ロボットは鉄腕アトムのように完璧なものではなく、稼働させるには人間との共存が不可欠です。たとえばテーブルや椅子が置いてあるスペースや壁際では、ロボットは清掃を行うことが困難です。よくロボットを「人」と置き換えようとはしますが、ロボットはあくまで「道具」であり、いかに人が使いこなすかが重要です。今まで3人でやっていた作業を、清掃ロボット1台と2人で行うことが現実的です。これによって1人は確実に削減でき、ほかの作業ができることとなります。

実際の現場でロボットをどう活用するか テスト導入が始まった

――現在の活動状況について教えてください。

糸賀 ロボットセンターではこれまで通り、ロボット事業推進課の社員が来場者にロボットの説明を行い、操作体験などの指導を行います。体験会や講習会については、全国ビルメンテナンス協会と連携し、日本ビルメンテナンス協会と連携して、全国各地で操作体験会を開催しています。今年6月に広島で開催し、年度内に東京・大阪・名古屋・札幌でも順次開催することが決まっています。

――業界初となるロボット導入の手引書もつくったそうですね。

糸賀 清掃ロボットは誕生して2〜3年の若い市場。多くの会社は、どうやって導入したらいいかわからないのが現状です。そこで、全国ビルメンテナンス

協会の協力を得て、清掃ロボットの導入手順を時系列に沿ってとりまとめた「業務用清掃ロボット導入までの手引き」を作成しました。初版は既に完成していますが、9月には、さらに最新の情報を盛り込んだ改訂版が完成する予定です。

――レンタルビジネスは今、どのような成果を上げていますか？

糸賀 1カ月、3カ月、6カ月とレンタルが動き始めています。現状では、実際の現場でロボットがどのように活用できるのか、テスト導入の段階といったほうがいいでしょう。「もう少し小型のロボットが欲しい」「エレベーターに自動で乗らないか」などの声も聞こえてきており、今後、新規メーカーのロボットの導入や、付加機能を足していくための貴重な情報になっていきます。また、ロボット化されていない従来の清掃機器についても、レンタルニーズが高いことから、今後、導入していきたいと考えています。

――テスト導入で蓄積した現場の情報をフィードバックし、準備を進めているのですか。

糸賀 一般的にビルメン業界の大型物件は3月に入札が行われ、むこう1年、2年といった有期の仕事が確定します。現在は、来年4月の本格導入へ向けて活動を行っているところです。

機種選定アドバイスから導入サポートまで 業界をリードする存在に

――最後に、将来の目標について聞かせてください。

糸賀 まずは清掃ロボットのレンタルを軌道に乗せ、機種の選定アドバイス、導入のサポート等、業界をリードしていける存在になることが第一の目標です。さらに新たな可能性として、清掃ロボットのレンタルで接点のあった大手ホテルから、配膳用ロボットやベッドメイキング用のシート搬送ロボットを開発できないか



A / 床面洗浄ロボット アマノ SE-500IXII
ティーチング方式により熟練作業者の操作を記憶し、自動運転で再現。細かな作業内容まで記憶し、安定した清掃品質で繰り返し作業を行うことが可能。650×1400×970mm 310kg

B / 自動床洗浄ロボット 中西金属工業 ロボクリーパー
高度なマッピング機能を搭載した自動走行型のお掃除ロボット。テニスコート9.6面分の広域清掃が可能。病院や体育館、工場、倉庫などの清掃に。925×850×880mm 275kg

C / 業務用ロボット掃除機 アマノ RoDC
タブレット端末で清掃エリアや運転条件をあらかじめ設定。タブレット操作が苦手な人もボタンひとつで操作可能。日々の清掃に便利なコンパクトサイズ。474×760×565mm 30kg

D / 業務用清掃ロボット フィグラ エフロクリーン Typell
空港施設やオフィスビル、商業施設、ホテルなどで活躍する自律移動型清掃ロボット。複合制御による位置精度の高い走行や音声メッセージ機能が特長。510×519×430mm 約28.2kg

E / ロボットクリーナー マキタ RC200DZ
オフィス、店舗などの清掃業務に。小型ロボットクリーナーとしてはクラス最大級の集塵容量（2015年10月現在、マキタ調べ）とプロの現場でも使える清掃性能が自慢。460×460×180mm 7.8kg

F / 狭小空間点検ロボット 大和ハウス工業 モーグル
ニースの高い点検ロボットもラインナップ。住宅の床下や共同溝の内部など、点検員の負担が大きい狭小空間の点検を遠隔操作で行う。250×495×280mm 約12kg

という依頼も受けています。こういった新しいロボットの開発にも、今後、ロボットメーカーと共同で積極的に取り組みたいと考えています。

――レンタルロボットの未来がますます楽しみになってきました。今後も期待しています。

新規事業開発部では、清掃ロボットをはじめとするロボットレンタル事業にとどまらず、今後、他の分野にも活動の場を広げていくという。将来、どのような新規事業が登場するのか、期待を込めて見守りたい。



日本のインフラが危ない！
 高速道路のトンネルや
 橋梁の定期点検が義務化

2012年に中央自動車道の笹子トンネルで起こった天井板崩落事故は、わが国のインフラ安全神話に警鐘を鳴らす重大事件だった。日本のインフラは高度経済成長期に集中的に整備されており、今後急速な老朽化が懸念されている。国土交通省は2014年より、橋梁やトンネルなど、すべての道路構造物を対象に、5年に一度の「近接目視」を基本とする点検を義務化。長大橋やトンネルの多い高速道路の保守点検・維持業務は大幅に増加することになった。

日本には現在、約70万基の橋梁と約1万本のトンネルがある。大型構造物の場合、「近接目視」のためには、点検する箇所近くまで人を運ぶ大型の専用車両が必要だ。こうした専用車両は高額な上、操作には専門のオペレーターも欠かせない。道路会社にとっては大きな負担だ。

そこでAKTIOは今年1月、国内



①4つの可動式ブームで橋の下にもスムーズにアプローチ。橋梁点検車BT-400 ②2t車ベースのコンパクトな遮音壁点検車YZ30FC ③作業姿勢のまま移動も可能な高所作業車YX60M ④最大作業床高54m、最大作業範囲37.5mの高所作業車S56XR

多様な環境や構造に応じた品揃えを誇るレンタル車両の中でも、注目は、最大片側3車線をカバーし、5mフェンスや3・5mの歩道越えも可能なタダノの大型橋梁点検車BT-400だ。多関節ブームにより、橋脚の下にもぐりこんでの点検作業も簡単にこなす。AKTIOはこの機種を国内総数45台中、グループで8台保有。車両レンタルにとどまらず、車両を操作する特殊技術をもった専属オペレーターの育成にも取り組んでいる。

**橋梁点検車はもちろん
 融雪車もラインナップ
 より総合的な支援体制へ**

の高速道路の効果的な維持・管理をサポートするため、産業設備部高速メンテナンス課を新設。高速道路だけでなく一般道も視野に入れつつ、総合レンタルで培った技術力と協力会社を含めた全国ネットワークを最大限に活用し、各地でさまざまな提案を行っている。

また、従来の機種では不可能だった点検を可能にするため、海外製のオリジナル製品にも着目。さらに、7m以上の遮音壁点検車など、現場が必要とする新しい車両の開発にも、国内メーカーと共同で積極的に取り組んでいるという。

冬場の積雪もまたインフラの大敵だが、積雪で通行止めになるリスク軽減のため、都心向けに融雪車の提案も。これが実り、この冬には首都圏で融雪車が初目見えの予定だ。

今後は、ICTやロボットを活用した点検技術の導入や点検後の補修、除雪、除草にも積極的に参加していく。「道路会社のパートナー」として一層の躍進が期待できそうだ。



グループで8台保有している国内最大級の橋梁点検車 BT-400

時代のニーズに応える新たな取り組みを紹介



AKTIO
 初!

交通インフラの保守点検にレンタルを導入!

**未来の
 安全を守る!**
 高速道路メンテナンス事業

高度成長期に急ピッチで開発が進められた日本のインフラは、今、大きな節目を迎えている。問題となっているのは、完成から50年以上を経て老朽化した高速道路や橋梁、トンネルなどの保守点検だ。人の力だけでは目視が難しい大型構造物の点検をより効率的、かつ安全に行うべく、AKTIOは今年1月、産業設備部 高速メンテナンス課を立ち上げた。

2018年5月、宮城県で行われた橋梁点検車BT-400による点検作業の様子

レンタルディングで未来を築く AKTIOグループ企業の紹介

**建機レンタル業界の
コンビニエンス事業**

一方、プロマックス事業部は、油圧シヨベル用アタッチメント・仮設ユニットハウス・仮設トイレ・事務什器など、工事現場のSOSに対応する多様な商品ラインナップが特長。いざ掘削しようとしたらバケットのサイズが合わないなど、建設現場で「困った！」事態が発生したらプロマックス事業部の出番だ。必要な商品をピンポイントで準備、スピーディに現場へ届けることにより「魅力的な商品ほど維持管理が大変」というユーザーの悩みを解決する。

さらに今後は、多様化するユーザーの声に応えるため、技術を蓄積して新商品の開発に取り組みたいという思いも。2015（平成27）年からは新しい挑戦として、レイアウトフリーなパネル式ハウス「PRO HOUSE」をプライベートブランドとして展開。目指すは、大から小まで、ユーザーのあらゆるニーズを満たす「建機レンタル業界のコンビニエンス事業」だ。

**教習センター・
都市型トレーニング
フィールドを開設予定**

来たる2019年には、エスアールエスの新たな事業展開として、教習センターならびに都市型トレーニングフィールドを開設予定。各種特別教育・技能講習・安全教育の資格取得および有資格者への資格講習などに加え、最新型機械や情報化施工の波及推進をサポートする教育施設として運用していく。これら新規事業を通じ、エスアールエスは、新たなサービスの提供とお客様とのさらなる信頼関係の構築を目指している。



AKTIO NETWORK
Vol.2 | SRS CORPORATION

エスアールエス株式会社

**若い力を活かし、目指すは「サービス日本一」！
建機レンタル・建設業界をサポートする総合サービス企業へ**

エスアールエスが追い求める究極の夢は「伝説のサービス」だという。たとえ地味でもお客様の心に深く残り、思わず人に伝えたいくなる、そんなサービスだ。保有台数5000台を超える高所作業車、レイアウトフリーを可能にした仮設ユニットハウス、数センチ刻みで取り揃えたバケットなど、圧倒的な品揃えが目を引くが、その基盤には常にお客様への思いが息づいている。



現場のニーズに応える5000台超の高所作業車

エスアールエス株式会社は、建設業界・建機レンタル業界を強力にサポートする総合サービス企業を目指し、1992（平成4）年に誕生。2012（平成24）年にAKTIOグループ加入。企業活動の柱は、高所作業車・仮設機材のレンタルを通じて建設現場の省力化・効率化に貢献する「ブルーテック事業部」と、幅広い品揃えで建設現場のSOSにきめ細かく対応する「プロマックス事業部」の2大事業部である。ブルーテック事業部の最大の特長は、5000台を超えるという高所作業車の圧倒的な保有台数。建設現場

に欠かせない「足場の上り下り」だからこそ、作業時間の短縮はもちろん安全性・作業性にも十分に配慮し、その結果、作業車の最大床高さを数10センチ刻みで取り揃えることになったという。高所作業車だけではなく、高所作業台から脚立・足場板、LED照明まで、仮設機材の品揃えも豊富だ。近年は伸縮・屈折を同時に動作できる特殊作業車の保有にも注力。東西の都市圏でさらにサービスを深化させ、取引先も、建設会社はじめ空調、衛生、電気などの各設備会社まで広がりを見せている。



エスアールエス株式会社 概要

本社	東京都中央区日本橋3丁目12番2号 朝日ビルディング8F
事業所	北海道、東北、北陸、関東、東海、関西、中国、九州など
設立	1992年8月3日
資本金	2億8,500万円(2017年12月31日現在)
売上高	104億円(2017年12月期)
従業員	403名(2017年12月31日現在)

全 **70** 拠点



SRSの新たなサービスの提供

エスアールエスが目指す新たなサービスとは、レンタルディングを核に、人材の育成によるサービスの向上、選択と集中によるクオリティ強化を通じ、お客様の喜びにつながる仕事を提供することである。

ブルーテック事業部

高所作業車、建築用機械器具のレンタル



電動高所作業台 4.5m 水圧式
高所作業車 クローラ 18m 屈伸式
高所作業車 Z型クローラ 9m デッキ旋回
高所作業車 クローラ 4m ポスト型

プロマックス事業部

油圧掘削機、アタッチメント、各種ユニットハウス、トイレ、事務什器・備品のレンタルおよび販売



快適トイレ
SRC構造用解体機
除塵バケット
プライベートブランドプロハウス

ゴミのない美しいビーチを次世代へ AKTIOグループで ビーチクリーン活動を実施

去る7月15日(日)、千葉県木更津市の金田見立海岸にてビーチクリーン活動を実施。AKTIOグループで行うこの活動も今年で11回目。付近の現場の方々にもご協力いただき、総勢約650人でゴミ拾いなどの清掃を実施した。



ビーチクリーン活動風景



今日も
ごあんぜんに
みんなで守る、みんなの安全

+ 今回のテーマ

Safe Work TOKYO

労働災害のさらなる減少へ向けて
東京労働局が打ち出した新たな取り組み、
「第13次東京労働局労働災害防止計画」を紹介!

全員が、それぞれの立場で労働災害の防止を

労働災害防止の実現を目指し、キャッチフレーズは 「トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心」



「第13次東京労働局労働災害防止計画」は、今年2月に厚生労働省が策定した「第13次労働災害防止計画」を踏まえ、東京労働局が、2018年度を初年度として5年間にわたり重点的に取り組むべき事項を定めたもの。労働災害防止にあたっては、すべての関係者が「労働災害は本来あってはならないもの」

という認識を共有し、「トップが打ち出す方針 みんなで共有 生み出す安全・安心」をキャッチフレーズに、それぞれが立場に応じて責任ある行動をとることで取り組みを推進する、としています。皆さんも、一人ひとりが意識をもって労働災害防止に取り組み、安全な職場を実現しましょう。

基本的な考え方

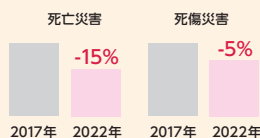
●2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会施設工事における安全衛生対策
→局署、受注元方事業者、関係団体及び労働者代表の連携で労働災害防止に取り組む。

●本社機能が集中する東京発の安全衛生対策の全国への普及拡大
→企業本社が主導する全社的な安全衛生対策の推進により、全国の労働災害の減少を実現させる。

●「行政が進める安全衛生対策の見える化」の推進
→「Safe Work TOKYO」を活用した「見える化」を図り、広く国民にアピールする。

基本目標

死亡災害、死傷災害ともに具体的な数値目標(右記)を掲げ、業種や事故の型に着目した対策を講じることにより、2022年までの目標達成を目指しています。



※目標の数値(%)はすべて2017年を基準とした2022年までの達成目標です。

小目標

- 建設業 / 死亡者数を15%以上減少させる。
- 製造業 / 機械災害対策を重点的に講じることにより、死亡災害を引き続き発生させない。
- 陸上貨物運送事業 / 死傷者数を5%以上減少させる。
- 第三次産業 / 死傷者数を死傷年千人率で5%以上減少させる。
- メンタルヘルス対策 / ストレスチェックの結果を活用した事業場の割合を60%以上に。
- 腰痛対策 / 第三次産業・陸上貨物運送事業の腰痛による死傷者数を5%以上減少させる。
- 熱中症対策 / 計画期間中に死亡災害を発生させない。

編集後記

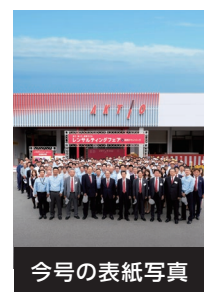
酷暑が続いた夏も終わり、すっかり秋めいてきましたね。秋を満喫するために、果物狩りなどの味覚狩りはいかがでしょうか? 旬の果物は、スーパーなどで買って食べても美味しいですが、自分で収穫したものは格別美味しいはず。

種類を調べてみると、ぶどう・りんご・梨・みかん・柿・キウイフルーツ・いちじく・栗・さつまいも・きのこ・松茸・落花生などいろいろな味覚狩りがありました。食べ方も様々で、ぶどうやりんごなど狩ったらその場で食べられるものや熟す前に収穫するため狩ってすぐに食べられないキウイフルーツ

や西洋梨、栗やさつまいもなど収穫後に調理が必要なものなどがあります。生育状況などに左右される味覚狩りは、でかける前に開園しているのか確認するのも忘れないようにしたいですね。

味覚狩りに興味津々な私ですが、なかなか行けていません。今年は、何種類か味覚狩りに参加し、秋を満喫したいと思っています。ちなみに、服装ですが、長ズボンに汚れてもいい靴というのが基本のようです。

営業企画部 広報課 成澤



今号の表紙写真

昨年12月に誕生した関西テクノパークでの「レンタルフェア」開催時のAKTIOグループメンバー。関西テクノパーク統括工場は総敷地面積4万㎡を誇る関西最大級の整備工場。AKTIOのもつ最先端技術からサービスまでを、来場者にご体感いただきました。